



【論文誌技術解説】

「英文論文誌 C のご紹介」 (英文論文誌 C 編集委員長)



江川 隆輔 (東京電機大学)

2022年6月より、英文論文誌Cの編集委員長を仰せつかりました江川と申します。これまで本ニュースレターにおいて、前任の委員長の皆さまから英文論文誌Cをご紹介いただいておりますが、会員の皆さまの中にも本誌に馴染みの無い方もおられるかと思っておりますので、あらためて英文論文誌Cの特徴と近年の活動状況について簡単に紹介いたします。

英文論文誌Cは、1991年の創刊された31年の歴史をもつエレクトロニクス分野を扱う英文論文誌で、毎月発行されています。本誌は常時投稿を受け付けている一般投稿論文と各研究専門委員会により企画された特定分野の小特集で構成されており、新規性・内容の有効性、論文構成を重視した論文誌です。小特集により、特定の専門分野の論文がまとめて閲覧できるとご好評をいただいております。

2021年度(2021年4月～2022年3月)には、一般論文、小特集論文、招待論文、研究速報を含む90件の論文が掲載されました。以下に、今後予定されている小特集号を示します。要素技術からその応用まで、大変興味深いトピックが揃っておりますので、是非、ご覧いただけますと幸いです。

- 2022年7月
 - Solid-State Circuit Design – Architecture、Circuit、Device and Design Methodology
- 2022年10月
 - Microwave and Millimeter Wave Technologies
 - Analog Circuits and Their Applications
 - Fundamentals and Applications of Advanced Semiconductor Devices
- 2022年11月
 - Recent Advances in Simulation Techniques and Their Applications for Electronics
- 2022年12月
 - Recent Development of Electro-Mechanical Devices
- 2023年4月
 - Electronic Displays
 - Recent Progress in Electromagnetic Theory and Its Application

- 2023年6月
 - Low-power and High-performance Chips
 - Recent Progress in Organic Molecular Electronics
 - The 30th anniversary of Intrinsic Josephson junctions : recent progress

また、本誌はインパクトファクタ(2022年現在 0.48)が付与されるなど、世界的に一定の認知度がある一方で、近年投稿数が減少傾向にあることも事実です。このような状況下で、本誌の質の向上に向けた被引用数、インパクトファクタの向上、オープンアクセス化に向けた施策について、編集委員会、エレクトロニクスソサイエティにおいてさまざまな検討、議論がなされてきました。その結果、ご関係各位の多大なるご尽力により、2023年8月以降に本誌で出版される論文は、J-Stageにおいてオープンアクセス化されることとなりました。これを機に、皆様の積極的なご投稿をお願いいたします。

今後も魅力のある、より良い英文論文誌Cを目指して、改善策を編集委員会で議論を重ねて参ります。議論を進めるにあたり、会員のみなさまの貴重なご意見を賜れますと幸いです。最後になりますが、英文論文誌Cの発行・運営においては、編集委員、査読委員のみなさまの献身的な活動により、査読、編集作業が進められています。この場をお借りして心より御礼申し上げます。また、会員の皆さまにおかれましては、変わらぬご理解とご支援を宜しくお願い申し上げます。

著者略歴：

2004年東北大学大学院情報科学研究科情報基礎科学専攻修了(博士(情報科学))。2005年東北大学大学院情報科学研究科助手、2007年東北大学サイバーサイエンスセンター助教、2013年同准教授を経て。2020年より東京電機大学工学部教授。計算機アーキテクチャ、高性能計算とそのアプリケーションに関する研究に従事。